

あんず祭開催決定!

【日時】11月20日 10:00～16:00

【場所】一宮西病院 1階フロア

昨年、第1回あんず祭として開催いたしました、病院祭。

約2,000名の来場数で大盛況に終わりました!

今年も『街と人が明るく健康でいられますように』の法人理念の下、地域の方々と交流し、もっと一宮西病院を身近に感じていただけるようなイベントにしたいと考えています。肺年齢や血管年齢がわかる健康チェックやアロママッサージコーナー、院内探検ツアー(小学生のみ)スタッフによる屋台(焼きそばやフランクフルトなど)またマジックなども!ご来場者には先着でご来場者プレゼントもございます!お気軽にお越しください。



ピンクリボン月間

10月はピンクリボン月間ってご存知でしたか?

ピンクリボンとは、乳がんの正しい知識を広め、乳がん検診の早期受診を推進することなどを目的として行われる世界規模の啓発キャンペーンです。

現在、日本では16人にひとりが発症と言われています。しかし、乳がんの検診率は30%! 10人に7人は検診したことがないという計算になります。

そこで一宮西病院では今年から健診センターで「忙しい女性のために、年に1回日曜日に乳がん検診を受けられる日」として10月の第3日曜日に乳がん検診と子宮頸がん検診を行いました!

当日、受診された方は20代から70代と幅広く様々な年代の方の関心があることを実感しました。受診者の方々からは、「平日は仕事をしているのでこんな日があると助かる」「簡単な検査なのでたくさんの女性に知ってほしい」「こんな企画をもっとやってほしい」「女性医師だったので安心しました」などなどたくさんのお声をいただきました。また、当日は「今後も乳がん検診のこと忘れないでね」という意味を込めてピンクリボンのアメをプレゼントさせていただきました。

当院の健診センターも今年4月にOPENしたばかり。まだまだ不十分な面もあるかと思います。感じたことや気が付かれたことなどは遠慮せずにスタッフにお伝えください。

社会医療法人
杏嶺会

住 所 〒494-0001 愛知県一宮市開明字平1番地

電話番号 0586-48-0077

ホームページ http://www.anzu.or.jp

一宮西病院

100歳のお祝い



9月末、老人保健施設やすらぎでは、かぞえ年で100歳になられる方のお祝いを行いました。今回は、大正元年生まれの方です。当日は一宮市の山口副市長が慰問に訪れ、他の利用者さんやご家族の方と共に盛大にお祝いを行いました。長寿大国日本と呼ばれて久しいですが、昨年に引き続き、今回も元気に100歳を迎えられる方がおられ、職員一同、感動しきりです。老健やすらぎでは、利用者の方々にとできるだけ日々楽しんで生活していただけるよう、様々な催し物やイベントを企画しています。詳しくは「あんずぶろぐ」にも掲載しますのでぜひご覧ください。

ブログ毎日更新中!

社会医療法人杏嶺会ブログ

あんずぶろぐ

http://kyoryokai.blog48.fc2.com/

こちらのQRコードからもご覧いただけます。



地域の皆様と
病院をつなぐ
一宮西病院情報誌
apricot news

vol.10

2011年
11月15日
発行

【発行】社会医療法人杏嶺会(きょうりょうかい)

[街と人が明るく健康でいられますように] 社会医療法人 杏嶺会ホームページ http://www.anzu.or.jp

アプリコット通信

南和友医師がスーパーバイザーに就任しました!

10月より、世界的な心臓外科の権威 南和友医師が一宮西病院のスーパーバイザーとして就任いたしました。

南医師はドイツで30年間心臓外科医として心臓手術を20,000例以上執刀し、その卓越した技術で数えきれない命を救い、ドイツの心臓センターをヨーロッパナンバーワンにまで引き上げたスーパードクターです。南医師は6年前に帰国され、現在は北関東循環器病院の病院長を務められています。大変気さくなお人柄で、「常に患者さんに寄り添い患者さんを思う」医療を心がけておられるそうです。

当院 心臓血管外科統括部長の小柳俊哉医師もドイツに渡り同じ心臓センターで研鑽を積んだひとりです。

心臓や血管に関することについては循環器内科をはじめとするほかの診療科とチームで取り組み、今後地域の心臓拠点病院として尽力していきます。よろしくお願いいたします。



南和友医師(左)と心臓血管外科部長の小柳俊哉医師(右)



循環器内科部長の大野医師と笑顔で握手!



院内を視察する南医師 リハビリ室にて



南和友医師の著書ご紹介
アチーブメント出版

解病-病気から解放される生き方-

心臓という視点からの健康論 ぜひ一読ください

また、南和友医師の就任を記念して、市民公開講座を開催します。当日は、元なでしこ日本代表キャプテンの池田浩美さんを迎え、元NHKエグゼクティブアナウンサーの山本浩氏とのトークショーや元なでしこのチームドクターより《健康についての話》、また南和友医師からは《心臓をケアし、健康的で活力に満ちた人生を実現する方法》など盛りだくさんの内容を予定しています。世界トップクラスの心臓外科医が語るスポーツや心臓病、健康についての内容です。ぜひみなさまお誘いあわせの上、ご応募下さい!

“人生を変える健康のチカラ”

【日 時】12月18日 13:30～15:30

【会 場】アイブラザー宮(一宮勤労福祉会館)

①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④電話番号 ⑤ご希望の人数をご記入の上、郵便ハガキにて下記の宛先にお送りください。【11月18日(金)必着】

なお応募者多数の場合は抽選とし、当選者のみに聴講券をお送りいたします。

宛先:〒494-0001 一宮市開明字平1番地 一宮西病院「市民公開講座」係

リウマチ外来が始まりました

POINT

リウマチとは？

関節リウマチは関節が腫れ、放っておくと関節が変形してしまう病気です。関節リウマチを引き起こす原因は今も研究がすすめられていますが、まだはっきりとはわかっていません。関節で慢性的に炎症が起こるため、放置しておくと関節が変形して、動かなくなってしまう。股・ひざ・足の関節の場合は、歩けなくなって「寝たきり」の原因ともなります。関節リウマチは30代から50代の女性に多く（約80%）発症しますが、60歳以降の方や男性にも発症することがあります。



POINT

リウマチ外来ってなにをするの？

少し前までは「リウマチは治らない」とか、「一生つきあっていかなければいけない痛い病気」だと言われていました。しかし、現在リウマチの治療は飛躍的に進歩しています。新しい抗リウマチ薬や生物学製剤が次々と開発され、症状の出ない状態や悪化させない状態の維持ができるようになりました。

しかし、関節リウマチは発症すると急速に進行し、関節破壊が起こることが分かってきました。関節の「痛み」や「はれ」がひどくなくても関節の内部で炎症が続き、関節破壊が進行していることがあります。早期発見にはきちんとリウマチ専門医にかかり、患者さん自身も病気のことを理解したうえで、早期に診断と治療を行いましょう！関節の機能を維持して快適な日常生活を送ることができます。

当院では水曜日の午前、リウマチ外来をはじめました。気になる症状がございましたらお気軽にご相談ください。



POINT

症状は？

はじめは「手がこわばって動かない」「関節がはれてだるい」「疲れやすくなった」「食欲不振」「体重減少」などの原因もあります。「はれ」と「こわばり」は、初期のシグナルとして注意が必要です。「はれ」は、初め指の関節に出ることが圧倒的多くなっています。特に指先から数えて2つ目の第2関節と、つけ根の第3関節に起こります。「こわばり」は特に、朝起き上がるときにあらわれます。「朝のこわばり」は、関節リウマチの代表的な症状の一つです。長い人で1時間以上、短い人では数分間こわばりが続きます。関節リウマチの「はれ」や「痛み」は初期は、常に持続するわけではなく、よくなったり悪くなったりしながら、じわじわと進むのが、ほとんどのケースです。はじめは大したことないなと思って気にしない人が多いと言われています。また、年配の方に発症するものと思ひ込んでいる人もいますが、30代でも発症する人もいます。

DOCTOR PROFILE



整形外科:リウマチ外来
松井 宣夫【出身大学】千葉大学(38年卒)

【モットー】
「生涯現役」
「常に患者さんの立場に立った診療を心がけています」

【経歴】
千葉大学 整形外科助教授
名古屋市立大学 整形外科教授
名古屋市立大学付属病院 病院長
名古屋市立大学 名誉教授
名古屋市総合リハビリテーションセンター センター長
日本福祉大学 客員教授
名古屋市総合リハビリテーションセンター 名誉センター長

縁の下の力持ち

～臨床工学技士さんのお仕事編～

臨床工学技士は人工心臓・人工呼吸器・血液浄化（透析etc）といった生命維持装置の操作や、除細動器・保育器・輸液ポンプ等の医療機器全般を保守管理する専門集団です。また手術室や血管造影室、内視鏡室の業務にも深く携わり、直接多くの患者さんと接することは少ないですが、病院の機動力としては活躍しています。

近年、医療機器の進歩は目覚ましく、臨床工学技士の業務は専門性が高まり、高い技術が要求されるために、呼吸療法認定士、透析技術認定士等を取得し、高度医療に対応しています。当院では、2011年4月より心臓血管チームが発足し、それに伴い、心臓手術には不可欠な人口心肺装置のスペシャリストとも言える体外循環技術認定士を2名採用しました。この体外循環技術認定士は2011年5月時点で全国に767名愛知県下で64名と大変重要な存在となっています。

今後、臨床工学技士は地域の皆様により質の高い高度な医療が提供できるように頑張っていきます。



心臓リハビリテーションが始まりました。



心臓リハビリテーションとは、心筋梗塞や狭心症の治療後の方や、また心臓手術を受けた後に行う、リハビリのことです。術後の生活に対する不安を解消し、できるだけ早く安全に社会復帰を果たし日常生活を行ったり、精神的不安定を解消したり、また再発防止のために行います。

ひと昔前までは、『術後は安静にしてください』というのが一般的でした。しかし、最近は医学的管理のもとで有酸素運動などのトレーニングを行うことで、運動能力の改善や自律神経機能などが良くなり、再発のリスクを下げる効果があることがわかってきました。手術が成功したから、治療が終わったというわけではなく、長い時間をかけて医師や看護師はもちろん食事の改善を指導する栄養士や、適切なお薬の飲み方を指導する薬剤師、そして、リハビリスタッフがチームになって、個人個人に合った指導を

行い、心臓を通して全身を診ていくことが重要になってきます。当院では、個人にあった適切な指導を行うために心肺運動負荷装置という機械を導入しました。心臓の異常は安静時には発見や診断が難しいため、運動負荷をかけ心拍や血圧、心電図の変化に異常があるかどうか、また個人の運動能力を調べ、どのような運動がその人に合っているのか、また時間や頻度などを指導するために心臓リハビリを始める際に、まず行う検査です。

また無理なく有酸素運動を続けることで、高血圧の改善や血糖値の改善、また運動能力や体力が向上し、骨も丈夫になり、心臓への負担も少なくなりますのでリハビリテーションが終了しても日々ムリのない程度に運動を続けることも健康に過ごす上で重要です。

